

司会 それでは時間になったので、中学校授業班の授業検討会を始めさせていただきます。よろしくお願いします。まず初めに授業者の方から、発表をお願いします。

発表者①

授業の方、お忙しい中見てくれてありがとうございました。私は1時間目の前半を担当しました。授業全体を通して、秋田でクニマスを見たいという問いの、生徒のからの引き出し方を、もう少し、一時間を通して考えれば良かったなと思いました。秋田でクニマスを見たいというのは、どちらかという2時間目がメインだったのですが、1時間目の導入の方でも、それにつながるような引出を考えれば良かったのではないかと思ったのが反省点です。以上です。

発表者②

1時間目の後半部分を担当した私から、反省点を述べさせていただきます。まず模擬授業の時に頂いたアドバイスから、一方的に私自身の方から説明しすぎているということで、穴埋め形式で年表の作成をしました。しかし、どうしても説明の部分が多くなってしまって、具体的に答えさせる部分を作っても良かったのではないかと思いました。もう1点、1930年代の歴史について、まだ、中学校二年生の子たちは学習していないということだったので、国家総動員法と第二次世界大戦の関係性について説明するはずだったのが、ちょっと省いてしまって、その理解が、学習していなかったせいもあり、難しくしてしまったのかなと思います。あとはやっぱり、自分の話し方ですね。前からの課題で、淡々と話してしまい、声のトーンが低いというのもあるので、ちゃんと最後の、人間がクニマスを絶滅させてしまったということを強調して言えたのかというところが反省点です。良かった点は、今日使ったワークシートを回収したのですが、まとめの部分を見てみて、4つのキーワードを使ってまとめて下さいというふうに設定したのですが、それにもかかわらず、色々言葉を付け足しながらまとめている子がたくさんいたので、そこに関しての知識理解の部分では、目標を達成できたのではないかと思います。

発表者③

今日は授業を見て頂いてありがとうございました。自分の反省点ですが、生徒の個人的な意見を授業に反映させられなかった点です。例えば、クニマスを故郷に戻りたいという思いを待たせるところですが、西湖でも生きていたら幸せだし、それはそれで良いという意見も出たし、最後、まとめのところ、メガネの男の子が、クニマスを戻りたいとかそういう事全ては人間がやっていることだからと言っていました。今回の授業の本質をついているところなので、こうした質問に対しての対応を前もって考えておくべきだと思います。私からは以上です。

発表者④

今日は授業を見て頂き、ありがとうございました。反省点が大きく3つあります。1点目ですが、説明する際に、日本語がおかしい部分が多かったので、正しく説明する必要がありました。2点目は、先生が座席表に子どもの名前を置いてくださったので、それを見ながら当てられれば良かったのではないかと思います。序盤は前の席の子たちにばかり当てていたのも、やはり座席表を使って机間指導をして、子どもの意見を聞きながら、子どもたちの意見を拾っていったら良かったのではないかと思います。3点目ですが、私のところで、「田沢湖にクニマスを戻したいよね」という思いを伝えるはずだったのですが、子どもの方から田沢湖に戻したいという思いをもう少し引き出せたら良かったなと思いました。振り返りの場面ですが、時間が押してしまって私自身が時計をすごく気にしてしまって、早足になってしまって、せっかく振り返りでいい意見がたくさん出ていたので、子どもたちの意見を生かした振り返りができたら良かったのではないかと思います。

司会

発表ありがとうございました。それでは、何か授業に関連した質問等があれば、発表お願いします。

学生①

発表お疲れ様でした。前回模擬授業を見た時よりも、2時間目の授業が、一方的な授業ではなくて、パワーポイントを使った問いかけがなされていたのは凄く良かったと思います。2時間目の最終的な目標とは、結局、クニマスに自分たちができることを考えることだったのか、絶滅危惧種の生き物に対して関心を持つことだったのか、どっちだったのかよく分かりませんでした。また、絶滅危惧種について関心を持つということをゴールにするのならば、関心を持つだけで終わってしまうのは、少しおかしいのではないかと思います。おそらく、絶滅危惧種の生き物に対して自分たちはどうしていきべきなのかということを考えることが、おそらく結びつき、最終的なゴールになっていくのだと思います。もし、絶滅危惧種を取り扱っていくとしたら、例えば、絶滅危惧種を出してくるところを、クニマスが絶滅危惧種に指定されているところまで持ってきて、絶滅危惧種をどう守っていくという視点から、クニマスについて考えていくという流れだと、結びつけるのは可能だったのではないかと思います。あと、僕はさかなクンの、生物の命のつながりというのは、すごく良いキーワードになっていたのではないかと思いますので、生物のつながりをどう大切にしていくかというのを考える事が出来れば、もっと良い授業になっていたのではないかと思います。以上です。

学生②

急遽電子黒板を使ったとおっしゃっていましたが、もともとはプロジェクターを使って

やる予定だったということですか？

発表者①

こちらが忘れてしまったので、急遽電子黒板を使うことになりました。

学生②

パワーポイントだったとしても、字のサイズが小さく、文字量も多かったので、後ろの子は見にくかったのではないかと思います。フォントの種類もあまり多すぎることなく、色を使い分ければ良かったと思います。また、資料も見にくいという声が子どもたちから上がってしまいました。どこに着目させたいのかを明確にした上で、自分たちで打ち直して、見やすくするというようなことをすべきだったのではないかと思います。1時間目のクニマス一匹に対して、コメ1.5キロとうのは凄くわかりやすくてよかったです。お金に例えて、さらに分かりやすく例える事が出来たらよかったですのではないかと思います。あと、年表にあった姫観音像がいまいち取り上げられていなかったのも、良いエピソードがあればちゃんと取り上げても良かったのではないかと思います。2時間目の資料が豊富でしたが、どこに着目させるべきか焦点化させた方が取り組みやすいし、変に色んな意見が出て授業に統一感が無いよりは、焦点化させた方が良いのではないかと思います。以上です。

学生③

発表お疲れ様でした。前回の模擬授業に比べて、全体的に分かりやすくなっていて、特に1時間目の方は内容がわかりやすくなっていたので良かったと思いました。姫観音像に関しては、どうして着目させるのかをわかりやすくすべきだったと思います。また、導入とつながりがないと、なぜ今この学習をしているのか、分かりにくいので、もう少し明確にすべきだと思いました。2時間目の切実性を持たせるというテーマなのですが、具体的に何をすべきなのか考えてこないと、なかなか難しいと思ひまして、自分も授業を見ながら考えたのですが、難しかったので、1時間目の最後の部分が見えるのではないかと思います。ここで、クニマスがいかに大事なのか、戻してあげたいとか、実際の人の思いであったり、戦時下の様子であったり、それもいかに厳しい様子であったのかとか、でも、これは必要だったという葛藤とかに触れても、十分な切実性を持たせる要素だったので、1時間目の内容を活かしつつ、切実性につなげられることができるのではないかと思います。最後に、2時間目の最後の部分で、何をねらいとしてどこで評価をするのかというのが気になりました。評価基準が、クニマスが絶滅危惧種であることに対して関心を持つことができるか、ということ、この授業活動のどの部分で、どうやって評価するのか疑問に思いました。メインの活動は、クニマスをどうやって復活させるのかをグループで考えるという活動なので、この活動と評価基準が一致していなければ、なかなか評価するのは難しいのではないかなと思います。ねらいと評価基準、主活動を一致させなければ、何を持って評価してよいかわからないと思ひました。

司会 1

それでは、続いてですね

教授 1

あの、もうちょっとあるのではないですか？言いたい人がたぶんまだ…

学生④

授業お疲れ様でした。まず、凄く良いなと思った点が大きく三つあって、まず、皆さん中学校が初めてということにもかかわらず一時間目の二人は落ち着いて授業を展開しており、二時間目のMさんは楽しそうに笑顔で授業していたのが良いなと思ったし、なおかつN君は独特のキャラクターがよく出て人気の先生になりそうだなと感じました。良かった点の二つ目はとても板書がわかりやすいなというのがありました。特に一時間目ですけれども左側に、ある程度年表だとか右側に地図、真ん中にこの授業で一番伝えたいことを持ってくる板書がわかりやすいなど、見て何を学んだのかということがわかる板書だったと思います。そして三点目は先ほど狙いだとかがあったのですが、多分授業者としてはほしい生徒のまとめだとか期待していたものが出てきたといいます。その背景には授業の一時間目には4つのキーワードを用いて授業者が狙っている部分をしっかり結び付ける工夫が行われていて、二時間目では様々な方法を出した後にスタディ・イントロデュース・アクションという観点を設けることで焦点化させて分類することによって、何について学んだかということが生徒の中でもしっかりと把握できていたからこそああいったまとめが出ていたのではないかと思います。こういった手法を私自身も参考にしたいなと感じました。課題について構造的な部分は先ほどT君からあったと思うので授業の教師のかかわりという部分で指導案なのですが、教師のかかわりで特に二時間目とか切実性を持たせて考えさせるのではなく、切実性を持たせるためにどういったかかわりをするのか。「～するために～する」といったように教師側の目的とやることをしっかり分けて書いたほうが授業を見学する側もどういった狙いでやっているのかといったことや教師自身が何を求めているのかということを知ってほしいという思いを分かりやすくなると思うのでそういった風には書き込んだほうが良いと思います。あともう1つの課題点では二時間目の活動のところでM君の独特のキャラクターが光って凄く盛り上がったと思うのですがグループ化して話し合わせてグループ化したままで説明を行ってしまったために後ろのほうで私語が多かったりだとか集中できない生徒がいたと思うので一旦グループをもどし、席を戻してそのうち説明であったり、各意見を発表させたりだとかしたほうがいんじゃないかと思います。グループ化についてなんですけども、今回グループ化するにあたりどんなことを目的としてグループ化しなければならないということを知った教師のかかわりのところで盛り込んだほうが、ただ話し合わせるためにグループ化させるのではなくいっぱい意見をだしどれが一番いい意見なのかといったことを生徒同士で練り合わせるのがグループ化で

しかできない練り合わせだと思うので、そういったところも発展させ、単なる発表会で終わらないで以降の学びにつなげていくとしたら練り合わせだとか話し合ったりだとかという学びもあったほうがもっとはってんてきなことができるのではないかと授業を見ていて思いました。お疲れ様でした。以上です。

学生⑤

先ほど授業者からのところで、自分が感じた良かったところを言っていきたいと思えます。今までいろんな意見が出てきた中で直すべき意見がいっぱいあったと思うのですが、自分としては授業の指示を出す中で「線をここにしっかり引いてね」だとか当てるときに聞いてみてもいいかなだとか、授業者自身の表情だとかそういったところで今日初めて会う先生であって、一つ一つのことを大切にしないと子供もずっと緊張したままで授業を受けている状態だと思いますし、先生方も緊張していると思うのでそういったところできたい、あったということが授業うんぬんよりも先生として良いなとみていました。この先生だったらいいなと子供も思うだろうし底の部分が見られたことが自分としては良かったなと思っていました。反省点ばかりでダメだったと思ってほしくないなとおもいました。自分は模擬授業の時研修で見られず今日初めて見たのですが、指導案は最初見た段階で面白そうだと思っていたのでマイナスマイナスにならない気持ちでいてほしいなと思いました。気づいたとことですが、固有種やどうすいを普通に使っていましたが、普通に使うのではなく子供たちに介してみては良かったのではないかと思います。特に一時間目でどっちも緊張している中で「固有種って何？」と聞けば子供からもいろいろな言葉が返ってくると思うのですが、そういったところからやり取りを増やしていったらもっと楽しい雰囲気が進んだのかと思いました。あとまとめのところにもあったのですが玉川銅水とは玉川の水のことではなく玉川の水を流すことですね。子供の発表を聞いたときに多摩川の水と解釈しているように聞こえてきたのでまとめの時に気をつけなくてはいいなかなと思ったのかと思いました。玉川銅水というのが何なのかということ子供たちがしっかりわかってなかったのを文章でまとめさせるときには気を付けたほうがいいのかと思いました。最後に、指導案の左側、生徒と授業というところの(2)授業についてですが、確かに単元として明確なものがあるわけではないが題材としてクニマスを取り上げていたので、クニマスは～という題材でとかいて指導についてのところでじぶんたちどのようにクニマスについて取り上げて生徒に指導したいということを書けばすっきりするのかなと思いました。授業を見終わった後で岩手にもこういった魚がないか調べたのですがなかったのでやりたいなとは思っていたのですが自分もこういうことを小学生にやりたいなと2時間見えました。2時間お疲れ様でした。

学生⑥ 授業お疲れ様でした。準備とか研究室に残ってやっているのを見ていたのでその頑張りが見られたなと感じています。1時間目ですが僕もT君とおんなじでいいところの中

心としてしゃべっていきたいのですが、まずクニマスの歴史を伝えるということで正直自分もクニマスのことを知らなくて子供たちの様子を見てもクニマスのことは今まであまり知らなかったと書く人がいたので秋田県民なのに知らないところを、歴史を追って伝えたいという授業者側の気持ちが伝わってきたので良かったなと思いました。どうやって伝えるかを考えた結果、年表を穴埋めしてやっていくという手段だったと思うのですが、難しいところではあるが、よく言えば緊張感を持ちながら集中して歴史をたどっていく勉強をしていたと捉えています。まとめを見ても歴史がわかってよかったと書いてあったので、それは雰囲気的には暗かったとも思いましたが伝わったのかと思いました。3時間目のほうで、1時間目とはまた違った明るい感じでやっていてよかったのかと思いますしS君の喋りというのが途中で訛りが入っていました。その訛りというのは、本当は標準語で話すべきだと思うのですが、今回のクニマスっていう題材を使っている上で秋田県のものだから伝えたいという思いが訛りに移ってしまったのではないかと僕はとらえました。なので、むしろ気持ちが伝わったので良かったと思います。まとめでこれからどうしていくのかというところでスタディ・イントロデュース・アクションという観点を絞って提示できていたのでとてもいいまとめだったとっていて、子供たちのまとめを見ていても歴史を知らなかったが今日知ることができてよかったしこれからクニマスに注目していきたいとか保護するためにできることをできるだけやっていきたいといったまとめが書かれていたのでその気持ちが伝わった授業だったので良かったなと思いました。指摘を加えるとしたなら、1時間目の導入のところクニマスっていうのがぱっと出てきてしまっているの今日クニマスについてやるのだよというのを意識づけるためにクニマスについてのやり取りをもう少しして子供たちの意欲を高めるような活動がもうちょっとあればいいなと思いました。まとめの部分あのビデオというのは今までクニマスの歴史を知って、現地にいる人の切実な我慢の声だと思うのですが其の声を機材の関係で伝えられなかったのは残念だったので、下準備をするのはもちろんのことあのビデオに字幕をつけるだったり、授業者がしっかり説明しておけば生の声も子供たちにより伝わったのではないかと思います。もう一工夫あれば良かったなと思いました。以上です。

学生⑦

お疲れ様でした。二人がいい点を言ってくくださったので私はよくなかった点いっていきたいと思います。指導案についてですが、ざっくりしすぎかなと思いました。授業やる人とかで授業見る人はまず指導案を見てどういう授業が行われるかを見るところなのですが、指導案というからにはこの時間で何をやるのかというところがわかるように書かれていなければならないと思います。T君が切実性のところも言いましたがどうやってとかこれをするために児童・生徒にどういった手だてで教えるのかといったところまで詳しく書かれてあるのがベストだと思います。道具ですが、ワークシートと1番最初に出ているがワークシートが何枚もありましたよね？どの場面で何のワークシートを使うのかまで書かない

と生徒も混乱しますし見ているほうも混乱したというのがあります。あと、(3)の指導についてですが、授業はじまる前に一方的になりやすいので見せ方の工夫をするということがたくさん書かれていましたが、そういった部分がどういったとことで反映されているのかときになりました。書き方についてですが、評価基準のところに関心意欲態度と書かれていたのですが、授業の実際のほうの(1)狙いの二時間目は興味関心態度という書き方はこういう言葉はないなと思ってそこも直したほうがいいと思いました。授業の中身ですが早く言い過ぎてしまったとか一方的になってしまう、淡々と話してしまうとありますが指導案を見てもらうと明確で教師のかかわりというのが伝えるだとか、紹介する、行う、協調すると全部先生が言っていることで教師がやることを生徒は受け取るしかないですよ？一方的になるのもそれは必然で何かをさせれば生徒たちにも動きは出ると思うが授業者自身が動いてしまうので授業が一方的になるのは当然だと感じました。2時間目は雰囲気がかかりと変わって、恐らく自分たちも内陸線だとか革細工の授業をやってみて歴史を教えるのは大変だと自分たちも感じていましたが、それを自分たちはすごろくでやったのですけれども、一時間目は歴史を教えるのは難しいことだと改めて思ったのですけれども、二時間目は考えさせる活動が主になっていて生徒たちの動きもあり、なおかつN君の独特の動きもあり、言い回しとかキャラクターだとかによって生徒たちも楽しそうにやっていたいい雰囲気はありましたが、小学校でなら人気のあるいい先生になると思うのですが中学校でそれを毎時間やると逆になめられるような感じを受けました。なので、それがN君のいいところではあると思うのですけれども使い分けていけるようになれば授業力のあるいい先生になるのではないかと思います。結果的に課題ばかり言ってしまいましたが、最終的にまとめの段階でクニマスについての授業者が行いたかったところまで到達していた姿がところどころ見られたのでこの授業は意味のあったものになったのではないかと最終的に思いました。以上です、お疲れ様でした。

学生⑧

まず、今まで何人かの人からあったように全体的に板書や説明などが模擬授業の時よりも良くなっていて全体的にわかりやすい授業であったなと思いました。改善点としては一つだけなのですがK君からもあったように1対1のやり取りというか、正解を出すのを急ぎすぎたということがあったと思います。正解を子供から出すのを急いでしまうとどうしても一人に突発的に指名してしまってそこから広がりがなくなってしまうので穴埋めの確認などであればすぐに確認しれもいいかと思います。中には時間をかけて考えたほうがいいと思うところがあったとおもっていて、例えば昭和東北大飢饉や満州事変、日中戦争との共通点はなどという発問をしたと思いますが、そこは大事なところであるのでそういうところには時間をかけて、隣の人と話し合わせるだとかということをしていけば機関指導の中で発言を拾うことができると思いますし、考える時間を与えることで生徒からしても発言のしやすさも変わってくるかと思いました。いきなり、今日初めて行って即興的

にやるのは難しいとは思いますがそういった場面も取り入れていけば生徒はしっかり考えてくれると思うので取り入れてみてはどうかと思いました。以上です。

学生⑨

四年生僕以外全員意見を言っていたので僕も言わないわけにはいかないと思ったので僕の意見なのですが、僕自身は K さんとか T さんとかが伝えすぎたといっていました、この前の研修に行って凄く納得したのが現場の先生から教えることを怖がるなど伝えてもらいました。結構みなさんいろいろ考えさせて発表させて、いうところがありと思うのですけれど、今回やっぱり習ってないというところもあると思うのでどうしても伝えないといけない、教えないといけないというところはあると思うので、そこのところは伝えないといけない教、えないといけないとこの前の研修を通して考えたので皆さんも教えることを怖がらないほうがいいのではないかと思います。あと、良かったと思う点は、単純なのですが、板書の字がきれいですごくいいなと思いました。僕はかけないので四月からどうなるのだろうという不安でいっぱいです。授業のところで僕も考えたところを指摘したいなと思います。1 時間目のところで、狙いのところがクニマスが絶滅した経緯を学び当時の歴史背景を理解するということだと思うのですが、ここのところではクニマスが絶滅した原因を考えさせたいとこだと思うのですが、だから、最初の指導案のところと逆じゃないかとおもいます。当時の歴史背景を理解させて、クニマスが絶滅した原因を考えさせることができるというような狙いのほうがいいのではないかと思います。結局ここのところは学習課題として原因を考えさせるころだと思うので、ここのところでいろいろな流れが断絶しているのではないかと思います。あと、もう一つ最後のところ、2 時間目のグループ活動するときの、クニマスが復活するために考えるところですが子供たちはみんななフリーダムな発想で出してくれていたのですけれど、資料とかを提示させるなどせっかくプレゼンを使ったのですからプレゼンの資料なんか電子黒板に出したりとか、プレゼンの資料も考えさせながらやればよかったのではないかと思います。最初なかなか考えにくかったところもあると思うのでそこのところで資料などを提示する必要があったのではないかと思います。以上です。

司会

二年生からは何かありますか？

学生⑩

授業お疲れ様でした。自分は今日の授業の中の最後の 3 つの観点でまとめられたところで、こういう考え方をさせることができるのかと勉強させられました。ただ、自分たちでできることと終らせないで、こういうこともできるよということを教えてあげることで、より自分たちのやれることが見えてくると思うので凄く良かったと思いました。少しだけ

こうしたほうがいいのかというところで、最後の復活させるためにという意見をまとめる前に秋田での取り組みの具体例が出ていたのですけれども、秋田県など大きな団体で取り組まれていることが多くて、自分たちで実際できることを考えさせる上ではそれでは大きすぎて、個人的な取り組みができるということを考えさせるのであるならば、もうすこし踏み込んで個人単位でやっているところもあるなどというも出せば、生徒が考えるうえでもうすこし踏み込んだ意見が考えられたのではないかと感じました。

学生⑩

お疲れ様でした。秋田でクニマスを見たいということ、1時間目のとこなどで子供と対話して掘り下げてあげれば、もうすこし動機付けが出てきたのかと思いましたけれど、1時間目と2時間目を通して今まで一緒にクニマスの授業を作ってきてみんなが悩んでいたところややってきたところが最後のまとめになってしまうのですが、みんな1つになって方とになっていたのが良かったのではないかと思います。1時間目のワークシートも個人での活動だったと思いますが、ワークシートでのまとめの場面とか、2時間目ではグループ活動や全体の場での振り返りとかという機会がクラスの子全員が身をのりだして授業に向かっていて最後に中学校班のみんなが一つになって頑張っていてよかったのではないかと思います。これをこれから明後日自分たちができるのかと不安にはなったのですけれど小学校班もみんなのチームワークで乗り切れるようにモチベーションが上がりました。お疲れ様でした。

学生⑦

皆さんお疲れ様でした。1時間目と2時間目でよかったところですが、1時間目は資料の提示の仕方がとっても上手で、クニマスを知らない人もなるほどなと思えることがたくさんあったのでとてもよかったのではないかと思います。2時間目はキャラクターの良さがいかせた授業で子供が考えやすい雰囲気を作れたのではないかと思います。気になった点が少しありまして、1時間ですけれど最初トップバッターで緊張していたと思うので、次に何をしなければならぬということが頭の中にあっただと思います。それを考えすぎて早く進みすぎたかなと印象に残りました。少し間をおいて生徒の様子を見ながら理解できているかを確認しながら進めたほうがよかったのではと思いました。あと、1時間目の最後の4つのワードを使ってまとめる作業に関してですがあれにもう少し時間を取れたらよかったのかなと思いました。一番後ろで見ていたのですが窓側の一番後ろの女の子が最後までできなくてまとめ書かずに終わってしまったのではないかと思います。もう少し手助けできれば良かったのかと思います。2時間目は皆さん行っていたのですけれど資料が見つからなかったと一番後ろで見ていて感じました。特に故郷税のところが一番下だし文字もかすれて見えづらかったのもそれだけを見せればよかったのかなと思いました。今日の授業を見てまとめが一番大事だなと気づかされたので自分も小学校班でまとめを担当するので今日の授

業を参考にしてもっといいのができるように頑張りたいと思いました。ありがとうございました。

司会者

「では、自分からも。授業お疲れ様でした。何点かあるのですが、まず、自分が気づいた点で、授業の内容というより生徒とのかかわりについてワークシートとかがたくさん出た中で、同が見る時もちょっともて見ましょうということばかりだったので、こういう点に注意してみましようなどと言ったらまたもっとそれを見た後の子供とのやり取りが深まったかなと感じたのと、機関指導など一時間目も一回あったと思うのですけれど難しい言葉もたくさんでている中でちょっと戸惑っていると子供もいたので機関指導のところで事前にやって自分が子供とやり取りする中で活かせたのかなと思いました。良かったと思うのは皆小学校で実習ただけで中学校は初めてでその中でみんな堂々としていてクニマスについて知ってもらおうという気持ちが伝わってきたので良かったのと、もう一点は二時間目のほうで見ている側からしたら子供の気持ちをつかんだと感じられたのですけれども最初の一時間目で知識を子供に伝えることができたから二時間目で子供たちの心をつかめたのかと思いました。自分たちも参考にしたいと思います。

司会者

ほかに何かありますか？

では先生お願いします。

教授①

はい。皆さんたちからいろんな意見がしっかり出て特に四年生全員からは暖かい言葉が非常にいいと思います。去年のことを皆さんの意見を聞きながら思い出して去年も四年生から愛のある言葉が授業者に対してあったと思いますが、研究室として前の先輩たちが今やった子たちへ、そしてその後へと受け継がれている感がすごくあって素晴らしい。こういうことはどんどん引き継いでいったほうがいいなと思いました。今日の授業に関しては、まず、研究授業として面白かったのではないかと思います。

一時間目と二時間目でテーマ性があった結果的には良かったのではないかという率直な感想ですね。一時間目はなぜクニマスが絶滅したのかということで歴史的背景から考えるということであれば、中学校の歴史教育をどういう風にしようかというアプローチですね。みんなそれに基づいた形でいろいろな意見が出たと思うのですけれど、いくつか感じたのは、一つは事実認識、具体性に欠ける場面があったのではないかという反省点があります。最初クニマスの価値を説明する際にさらっと行き過ぎてしまい一匹米一升の価値なのだということが1500グラムといわれてもわからないところがある。事実認識をしていくときにどれだけ当時の人が価値あるものとしてクニマスを受け止めていたかに迫ってあげないと

伝わらないですよ。クニマスは 1500 グラムだったのだということだけでクニマスの価値がわからない。クニマスだけで 60 年もあそこで暮らせていたわけだから凄い大きい価値があったのです。さらに、それが絶滅したと、酸性の水に変わったのですよね？では、当時酸性の雨がたくさん降ったのか？火山が近いから火山がながれこんだのか？そうではなくて銅水という事実があったわけだが、では銅水ということで水がどれ代わって死んでしまったのかということがわからない。酸性雨がどれだけひどいのかということに関しては我々が十数限授業やった際にこだわって pH いくつになっただとかやった思い出がある。これくらいになると魚は絶滅してしまうのだと、毒水といわれている水はどの程度毒だったのかというところを迫ってほしかったし、昭和東北大飢饉に関してはさらっとしすぎていてどれほどの飢饉だったのかということがあまり伝わっていない。国策が行われなくてはならないほど周辺環境が変わってしまった飢饉がどれ程の飢饉だったのか、具体的な統計やデータでもいいし写真でもいいので事実を迫ってほしかった。歴史教育なので事実をどれだけ抑えていくかということが大切であると思います。それがちょっと欠けていたなというのが一つありました。次は授業のあり方として、作業がちょっと多かったかなというのがありました。姫観音の線引き、年表を見ながらのワークシートの穴埋め、まとめのキーワード作文とこれだけの量を 50 分間である程度丁寧にやろうとするならば生徒たちの自由な発言の時間を削らなくてははいけなくなる。こういう歴史の授業も当然あるのだと思うが今回の授業の場合はもうちょっとそうじゃないほうが前半の歴史の授業を盛り上げることができたのではないかなとおもいました。組み方の問題かなという感じがしました。始発論がなぜ絶滅したのかであり、どのようにではない。どのように絶滅していったかとなれば歴史的背景があって、国策がなされて、銅水が流されてとなるのだろうけれど、なぜってなった場合は絶滅した段階から時系列的に推論していくはずなのですよ。なぜ死んでしまったのか、先ほども言ったように水質が、環境が変わってしまったのだと、それがなぜなのだろうかと畳みかけるように迫れば、どうして田沢湖の水質が変わってしまったのか皆考えます。それが、実は人の手によるものだった。銅水によるものだった。なぜ銅水をしたのか、それは実は国策だったのだ。ではなぜそんな国策を取らなければならなかったのかとどんどん「なぜ」と問いかければ推論させることができるのです。それに合わせて組んでも歴史的な授業としては面白かったのかと、もっと発言させる授業になったのかと思いました。どうしても穴埋めなんかがあった通りで、もう一つ気になるのは授業者の歴史像というのを生徒に理解させていくのが強い気がして歴史の授業としてそういったことがいいのか悪いのかということを考えてほしかったと思いました。そうじゃないところから組み立てることも十分できたのではないかと。

二時間目については現代の課題ですよ。今田沢湖のクニマスをどう復活させたいのか、社会にかかわったり、社会に働きかける事業をどういう風に中学生が扱ったらいのかですが、社会参加等いろいろな言葉が使われていたし、みんなたちの場合はある程度スタンダードにアイデアを個人で出させてグループで考えさせて発表させてという風に

ある程度スタンダードな組み方だったのでそれにのっとった形である意味順調な形で進められたのかなと思いました。ただ、子供たちも気づいていると思うのだが、一時間目からの流れからすると自分たちのアイデアだけを出して終わりなのかと、ある程度面白いようなユニークなアイデアが考えられてそれが出されてまとめられればおしまいなのかと、もっと極端に言ってしまうと空論になりがちというようなアイデア勝負になってしまう。意見からも出ましたが本来なら具体的な自然の条件を変えなくては絶対復活できないだろうし、その条件を整えるための社会的な条件、法の整備や、予算や組織とリアルに社会の条件に置き換えた時にそれをやるためにどういうことが必要なのかと負うことを考えさせ場合もある。だけど、みんなたちの場合はある意味アイデア勝負です。アイデアを出していったのだけれども、子供たちも何となくそういう雰囲気があるなと思って見ていたのだけれどただ面白かったには最後にスタディとイントロデュースとアクションでまとめたのではないですか、今日勉強したことを、これを機会にもっと勉強しても、それは勉強した価値があったことだしちょっとでもいいから勉強したことを伝えればそれも課題解決の一つであり中学生なりに何かできることなんじゃないかという無駄ではなくて些細なことでも中学生なりにもうちょっと勉強してみるだとか、もうちょっと誰かに伝えたいということであったとしても社会参加という大げさなことまで言わなくても自分なりにできることがあるということが面白いと思いました。こういうパターンの現代の課題を扱う授業もあるのかもしれないとおもいました。どうしてもはない気だけ荒くなってうわっぺらだけの、机上の空論だけで終わらずに追われたのが面白いなと思ひ見させてもらいました。二つの授業ともに面白くて意味のある授業研究だったのでないかとおもいました。小学校のほうも頑張ってください。以上です。

教授②

はい。終わった時によくやったなという印象です。欲を言えばまず指導案からですが、あ里の名前で授業をやってしまっただけは困る。クニマスって何だろうという授業ではなかったよね。クニマスのことに関してはそれほど詳しくというわけではなかったはず。絶滅した理由などはよくわかったと思うがクニマスがどんな生体であるかということにはわかってないのでこれはタイトルを改めて変えたほうがいいと思いました。それから、事前に活字にできるものはする。簡単なこれだけはいけない。授業についての2012年というのは普通に算用数字で書くということ。内容については歴史的な背景をとあるが実際考察のところはどういうことがあったのかという具体的なことを書かなくてはいけない。歴史的背景を扱えだとか、人々の苦勞をというのではなく考察というのはそのものの内容を書かなければいけない。そこは書き直してください。展開のところで行くとまず授業者が生徒をつかむところを心掛けなくてはならない。それからすると最初の時間は緊張したという部分もありますが、若干硬かった。二時間目のような語り掛ける形で生徒の中にもっと踏み込んでいっていいのではないかと思いました。そうすればたとえ穴埋め式の展開をや

ったとしてもガラッと雰囲気は変わる。応答の仕方や教師のリアクションとかがユーモラスであったりじゅうなんであったりすれば生徒はいくらでも変わるので、初対面なのでお互いに緊張はしているがそこを変えていこうという気持ちで臨むと生徒の反応は良くなります。その辺を今後の課題としてみてください。あと、事前のところで名前を確認しておくというのが必要なと思います。我々が授業をしたときは名札などでそういうことをした。少しそういうところもやればよかった。機材のことだが、プレゼンとか映像を見せるというのは慣れているものでも相性とかで出ないときがある。だからこれは一番気にするところである。せつかくよいした動画だとかがキチンと表現されなければ、今日の一時間目の最後のものもせつかく取材に行ったのにその声が小さいばかりにやっとなりに届く程度なのでそういうところをチェックシートで教材一式を全部チェックいれて確認して動作環境をみてやらなければ大失敗を犯すかもしれない。つかえていたものが使えないということもあり得る。展開のところだがせつかく最後にさかなクンのタックジャーだけ？あそこにあった絵かな？あった絵替えが出てきてさかなクンの言葉で閉じるのであればさかなクンの映像くらいは写真でもいいので少しでも出てきたりしたほうがよかった。導入がずっと行き過ぎていた。つかむという段階であまりにも自分たちのやりたいことが過ぎていた。そこ馳年生からも指摘があったようにひきつけるような間合いというものが重要。もうすこしひきつけてその後でクニマスというものを出すというテクニックが必要なのではないかと思った。

教授 1 からもでたが歴史を振り返るとするのは難しい。論文で歴史を考察するのも難しい。僕がNHKからもらったサイエンスゼロの中には戦時中なぜってという部分があった。歴史的な映像はある。だから先ほど水温ということが出てきたがどうして、なぜクニマスはいなくなったかということはどういう理由からこの映像を見てくださいますかとしてやれば、そこにも答えになるようなものがある。